

2010 年度「スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究」報告書

「近現代サハリン・樺太における境界変動と跨境的人流・物流に関する研究
：ロシア極東・北東アジア地域における相互理解に資する歴史記述を求めて」
(代表：今西一)

延辺自治州は中華人民共和国の朝鮮族自治州であり、いわゆる満州国との境界領域を含んだ地域である。東アジアの近代史において最も問題になる地域のひとつで、日中韓の歴史研究者を集め、その歴史的経緯や現状を率直に話し合い、今後の研究進捗に資する研究者ネットワークを形成することができた。スラブ研究センターの助成は、研究者番号を持たない天野をこのシンポジウムに列席させるために有用であった。

『極東におけるコリアンの移動の問題』シンポジウム

2010 年8 月21 日

延辺大学経済管理学院（中国延辺朝鮮族自治州）

報告者

今西一（小樽商科大学教授）「サハリンの朝鮮人問題」

権哲男（延辺大学教授）「満洲国」時期の農産物価格の変化及農業生産に対する影響」

李聖華（延辺大学・副教授）「延辺朝鮮族自治州の直接投資と対外貿易」

白木沢旭児（北海道大学教授）「日本における満洲研究の現状と問題点」

石川亮太「日本の植民地経済史研究と「アジア間貿易」論」

参加者（上記報告者以外）

麓慎一（新潟大学・准教授）

三木理史（奈良大学・准教授）

水谷清佳（東京成徳大学・助教）

井澗裕（北海道大学・研究員）

天野尚樹（北海道情報大学・非常勤講師）

朴仁哲（北海道大学・大学院生）

中山大将（京都大学・研究員）

また、中山は、サハリンに来訪した帝政期ロシアの作家・チェーホフの『サハリン島』が、樺太社会でいかに受容されたのかを検証するために、北海道大学附属図書館北方資料室や北海道立図書館での資料調査を行った。スラブ研究センターの助成は、このために有用であった。